

鳥取大学 研究データ管理・公開ポリシー

令和6年3月13日 教育研究評議会承認

鳥取大学（以下「本学」という。）は、現在に至るまで、実学を重視して、人類が蓄積してきた知識を駆使し、地域社会が直面する課題に果敢に挑み、人々の生活の向上と産業の育成を通して地域に貢献してきた。同時に、問題の解決を探求する中から人類に有用な普遍的知識を見出して世界に発信し、平和な社会の建設と人材の育成や学術の進歩に寄与してきた。また本学はこのように実学を中心に地域とともに歩んで世界へ展開してきた伝統を重んじ、これからも知識を深め理論を身につけ、実践を通して地域から国際社会まで広く社会に貢献することで、知識をさらに智慧に昇華する営みを志向していく。すなわち、理論と実践を相互に触発させ合うことにより問題解決と知的創造を行う「知と実践の融合」を本学の基本の理念とし、教育、研究及び社会貢献に取り組む。

上記理念の下、研究活動の過程で生み出される成果を適切に管理・利活用することにより、本学において高付加価値な研究を加速させ、また社会と知の共有と融合を進め、新たな形での価値創造を実現する環境整備を図るため、本学における研究データの管理及び公開に関する基本方針を示した研究データ管理・公開ポリシー（以下「本ポリシー」という。）を以下のとおり定める。

（研究データの定義）

1. 本ポリシーが対象とする「研究データ」とは、本学における研究活動の過程で収集または生成された情報を指し、デジタル・非デジタルを問わない。

（研究者）

2. 本ポリシーにおける「研究者」とは、本学の教職員、学生、受入研究員など、本学における研究に携わる全ての者をいう。

（研究者の権利と責務）

3. 研究者は、関係諸法令及び関係する学内諸規則を遵守し、収集または生成した研究データを自律的かつ適切に管理し、オープン・アンド・クローズ戦略を踏まえ、研究データの適切な範囲での公開、共有又は非公開・非共有の選択を行う。また公開するデータについては、必要に応じて利用条件を付して、利活用を促進する。

（大学の責務）

4. 本学は、研究データの管理及び公開を支援する環境の整備を推進する。

（その他）

5. 本ポリシーは、法令、社会や学術環境、大学を取り巻く状況等の変化に応じて、適宜見直しを行うものとする。